

# 1 概況

## (1) 気象概況

－気象庁資料からみた、平成24年の月別の気象概況は、以下のとおりである－

### 1月 北日本から西日本にかけて低温となり、日本海側を中心に大雪となったところがあり、沖縄・奄美は日照時間が少なかった。

優勢なシベリア高気圧の影響で冬型の気圧配置が強く、日本付近に強い寒気が流れ込んだ影響で、月平均気温は北日本から西日本にかけて低くなった。北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、北日本から西日本のアメダスを含む15地点（気象官署、アメダス合わせて330地点中の数）で1月の月最深積雪の大きい方からの一位を更新し、山地では3メートルを超える積雪となったところがあった。また、北日本日本海側では上旬末から中旬中頃にかけて、北日本から西日本にかけての日本海側では下旬中頃から月末にかけて、非常に強い寒気が流れ込んだ影響で、所々で降雪量が多くなった。北日本から西日本にかけての太平洋側では、晴れの日が多かったが、冬型の気圧配置が一時的に緩んだ中旬中頃から下旬初めにかけては、日本の南海上を通過した低気圧の影響で雨や雪が降り、大雪となった所があった。

沖縄・奄美では、大陸の高気圧の張り出しに伴う寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、月間日照時間はかなり少なかった。

### 2月 北日本から西日本にかけて低温となり、北日本から西日本にかけての日本海側で積雪が多く、北日本太平洋側を除き、全国的に日照時間が少なかった。

月の前半を中心にシベリア高気圧、アリューシャン低気圧共に強く、西高東低の冬型の気圧配置となる日が多かった。一時的に冬型の気圧配置が緩んだ時期もあったが、断続的に強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本にかけて気温が低く、東・西日本日本海側の降雪量が多かった。また、北日本から西日本にかけてのアメダスを含む23地点（気象官署、アメダス合わせて330地点中の数）で2月の月最深積雪の大きい方からの一位を更新し、山地では3メートルを超える積雪となった所があった。冬型の気圧配置となる日が多かった影響で、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、北日本太平洋側では晴れの日が多かった。東・西日本太平洋側では、晴れの日も多かったものの、本州の南岸などを通過した低気圧や前線の影響を受け、月間日照時間は少なく、月降水量が多かった。沖縄・奄美は寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。

### 3月 東・西日本で寒暖の変動が大きく、上旬は東日本太平洋側で記録的に日照時間が少なく、北日本は4か月連続で低温となった。

上旬は本州の南岸沿いを通過した低気圧や前線の影響により、北日本から西日本にかけての太平洋側を中心に全国的に曇りや雨または雪の日が多く、特に東日本太平洋側では記録的な寡照となり、3月上旬としては、統計を開始した1961年以降最も日照時間の少ない値を更新した。中旬以降は、北日本から西日本にかけて天気は周期的に変化したが、低気圧の通過後に冬型の気圧配置となるなど寒気の影響を受けた日が多かった。このため、北日本から西日本にかけて気温の低い日が多くなり、東・西日本の日本海側を中心に曇りや雨または雪の日が多く、太平洋側を中心に晴れの日が多かった。沖縄・奄美では、中旬まで低気圧や前線または寒気の影響により曇りや雨の日が多く、日照時間が少ない状態が続いた。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が続き、昨年10月下旬以降14旬ぶりに旬間日照時間が多くなり、旬降水量は3月下旬としては統計を開始した1961年以降最も少ない値を更新した。北日本では、昨年12月以降、4か月連続で月平均気温が低くなった（12～3月としては2001年以降11年ぶり、ただし2001年は11月以降5か月連続）。一方、東・西日本では、月を通して寒暖の変動が大きかった。また、上旬にかなりの高温となるなど暖かい空気に覆われたことが多かった沖縄・奄美では月平均気温が高かった。

#### 4月 北日本で気温が低く、月のはじめに北日本から西日本にかけて大荒れの天気となった。

上旬は寒気や冷涼な高気圧に覆われた影響により全国的に気温が低く、北日本と東日本日本海側では曇りや雨または雪の日が多くなり、その他では晴れた日が多かった。急速に発達しながら日本海を進んだ低気圧の影響により、3日から5日にかけて、北日本から西日本の各地で大荒れの天気となり、76地点（気象官署、アメダス合わせて889地点中の数）で最大風速の観測史上1位を更新するなど、広い範囲で記録的な暴風となった。また、北日本では上旬を中心に降雪量が多かった。中旬以降は、高気圧と低気圧が交互に通過し、全国的に天気は短い周期で変化したが、中旬後半から下旬はじめはオホーツク海高気圧の影響により、北・東日本太平洋側では気温が低く雲が広がる日が多かった。沖縄・奄美では、中旬以降は前線や湿った気流の影響により、曇りや雨の日が多かった。また、下旬は、沿海州付近の低気圧に向かって流れ込む南からの暖かい空気などの影響により、全国的に気温が高い日が多かった。

#### 5月 東日本を中心に、上旬や下旬は大気の状態が不安定となり、上旬前半は北・東日本太平洋側で大雨となり、西日本は月降水量がかなり少なかった。

東日本を中心に、上旬や下旬は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となることたびたびあり、所々で雷雨となった。特に、6日は茨城県、栃木県、福島県で竜巻が発生し、大きな被害をもたらした。また、上旬前半には動きの遅い低気圧の影響で北・東日本太平洋側では記録的な大雨となり、これらの地域の5月上旬の降水量は、統計を開始した1961年以降最も多い値を更新した。

西日本では、低気圧や南西からの湿った気流の影響を受けにくく、月降水量はかなり少なかった。西日本太平洋側は、5月としては統計を開始した1946年以降で2009年と並び最も月降水量が少なかった。沖縄・奄美では、中旬は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、上旬と下旬の前半は梅雨前線の活動は不活発で晴れの日が多かった。

気温は、北日本から西日本では、上旬前半は高温となったが、上旬おわりから中旬はじめにかけて寒気の影響で低温となるなど、月前半は気温の変動が大きかった。

#### 6月 西日本太平洋側で顕著な多雨となり、西日本太平洋側及び沖縄・奄美で日照時間がかなり少なく、北日本日本海側及び東日本日本海側では少雨多照となった。

月前半は梅雨前線が日本の南海上に停滞し、上旬の中頃には台風第3号が沖縄付近を通過した。一方、北日本付近は北に偏った高気圧に覆われた。月後半は梅雨前線が本州付近に停滞し、台風第4号が19日に和歌山県南部に上陸した。また、21日に台湾付近で消滅した台風第5号に伴う暖かく湿った空気の影響で、梅雨前線の活動が活発となった。一方、北日本から東日本は周期的に北に偏った高気圧に覆われた。

降水量は、活発な梅雨前線や台風第4号の影響が大きかった西日本太平洋側でかなり多く、西日本を中心に洪水や土砂災害が発生した。一方、北に偏った高気圧に覆われた北日本日本海側から東日本日本海側にかけては、降水量が少なかった。日照時間は、梅雨前線や台風の影響が大きかった西日本太平洋側と沖縄・奄美ではかなり少なかった一方、東日本日本海側ではかなり多く、北日本日本海側で多かった。気温は、西日本で日照時間が少なかった影響で低かった。また、北・東日本太平洋側ではオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で低温となった時期があった。一方、月末は高気圧が北日本付近を覆ったため、北海道を中心に高温となった。

#### 7月 「平成24年7月九州北部豪雨」が発生し、月の中頃と下旬は東・西日本を中心に猛暑日となったところがあり、オホーツク海高気圧の影響により一時的な低温になった。

期間の前半は梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、太平洋高気圧は本州の南海上で西に張り出した。このため、沖縄・奄美では晴れの日が多かったが、北日本から西日本では曇りや雨の日が多かった。特に九州北部地方では11～14日にかけて、非常に湿った空気が流れ込んだため記録的な大

雨となり甚大な災害が発生した（「平成24年7月九州北部豪雨」）。

月の中頃には、太平洋高気圧が本州付近で次第に強まり、東・西日本と沖縄・奄美を中心に晴れの日が多くなった。しかし20～22日頃にかけては、北・東日本では太平洋側を中心にオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響により曇りとなり、気温が平年を大幅に下回ったほか、東日本日本海側や西日本でも湿った気流の影響により雲が広がりやすく、一部では大雨となった。

23日頃からは太平洋高気圧が西日本付近で強まったため西日本では晴れた。その後26日からは、北日本から西日本にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れて気温が上がり猛暑日となった所もあった一方、沖縄・奄美では湿った気流の影響により雲が広がりやすくなった。

なお、四国、中国、近畿、東海、関東甲信地方では17日ごろ、北陸地方では18日ごろ、九州南部と九州北部地方では23日ごろ、東北南部と東北北部では26日ごろ、梅雨明けした。

## **8月 北日本から西日本では高温、東日本と東北地方で少雨・多照となり、西日本を中心に局地的な大雨が発生し、沖縄・奄美では記録的な多雨となった。**

太平洋高気圧の勢力が日本の東海上で強く、本州付近に張り出したため、北日本から西日本では月平均気温が高かった。特に月初めは気温が平年を大幅に上回り広い範囲で猛暑日となった。その後は一旦平年程度に暑さはおさまったものの、月の後半は北日本と東日本を中心に気温が再び平年を上回り、所々で猛暑日となる状態が続いた。北日本と東日本では下旬の気温がかなり高く、北日本では1961年以降最も高かった。また、東日本を中心に晴れの日が多く、東日本と東北地方では日照時間が多く、降水量が少なかった。一方、西日本を中心に太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気や上空に寒気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となり、局地的な大雨や雷雨となった所があった。特に、13～14日にかけて、朝鮮半島から日本海中部へのびる前線がゆっくりと南下し、本州付近に達した。前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定となり、近畿中部を中心に大雨となり、局地的に猛烈な雨が降った。沖縄・奄美では、上旬に台風第9号、第11号、下旬には台風第14号や26日に沖縄本島付近を通過した台風第15号の影響を受けたため、8月の降水量は統計を開始した1946年以降最も多く、日照時間はかなり少なく、気温は低かった。

## **9月 北日本を中心に記録的な高温となり、台風第16号と第17号による大雨・暴風・高波・高潮となり、東日本で日照時間がかなり多く、北・東日本の一部で中旬にかけて少雨となった。**

上・中旬は、日本の東海上で太平洋高気圧の勢力が非常に強く、北・東日本では、高気圧に覆われて晴れたことや、高気圧の張り出しに伴い南から暖かい空気が流れ込んだことなどにより気温がかなり高く、北日本では月平均気温が統計を開始した1946年以降で最も高くなり、記録的な高温となった。また、秋雨前線の日本付近での活動は下旬の一時的なもののみで、東日本の月間日照時間はかなり多くなり、特に東日本日本海側では統計を開始した1946年以降で最も多くなった。東北地方から北陸地方、関東甲信地方の一部では降水量が少なく、7月下旬後半からの少雨の状態が続き、取水制限が実施されたなどの影響があった。西日本では、月の前半は南からの湿った気流の影響により雲が広がりやすかったが、沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。月の中頃には、台風第16号の影響により、西日本太平洋側から沖縄・奄美にかけて大雨・暴風となった。また、沖縄・奄美と九州を中心に高潮となり、那覇市や長崎市などで過去に記録した最高潮位を上回る高い潮位を観測した。その後も、中旬の終わりにかけて台風から変わった温帯低気圧や日本海の前線にむかって南から湿った空気が流れ込み、西日本から北日本にかけて大気の状態が不安定となり、東海地方で大雨となったり、関東地方と東海地方では竜巻が発生した所があった。下旬は、東・西日本では天気は数日の周期で変化し、北日本と沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った空気の影響により曇りや雨の日が多かった。日本の東で太平洋高気圧が非常に強い状態は中旬までで収まり、北日本を中心とする記録的な高温は解消した。旬の終わりは、台風第17号の影響により、全国的に大雨・暴風・高波・高潮となった。なお、月をとおして、北日本から西日本にかけては、南からの湿った空気や上空の寒気の影響により、大気の状態が不安定となり雷が発生した日が多かった。

## 10月 北日本で高温となり、東・西日本で日照時間が多かった。

北日本は、月をとおして高気圧と低気圧の影響を交互に受け、天気は数日の周期で変化した。上旬を中心に暖かい空気に覆われることが多く、上旬の旬平均気温は10月上旬としては統計を開始した1961年以降で高い方からの一位となった（1994年とタイ記録）。このため、月平均気温もかなり高くなった。

東・西日本では、上旬から中旬にかけては、台風や低気圧の影響により広い範囲で雨となった日もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多く、東・西日本太平洋側では月間日照時間がかなり多くなった。下旬は、北日本付近を通過した低気圧の影響などにより、天気は数日の周期で変化した。

沖縄・奄美では、中旬は台風第21号や前線の影響により曇りや雨の日が続いたが、上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

## 11月 北日本と東日本日本海側では月降水量がかなり多く、月間日照時間がかなり少なく、月平均気温は北日本で平年並、東日本以西では低かった。

北日本と東日本日本海側では低気圧の影響を受けやすく、曇りや雨または雪の日が多かった。北日本と東日本日本海側での月降水量はかなり多く、月間日照時間はかなり少なかった。特に、北日本日本海側の月降水量の平年比は160%となり、1946年の統計開始以降最も多い値を更新した。また、北日本太平洋側の月間日照時間の平年比は77%となり、1946年の統計開始以降最も少ない値を更新した。

東日本太平洋側と西日本では、低気圧と高気圧が交互に通る天気は数日の周期で変わった。沖縄・奄美も天気は数日の周期で変わったが、上旬を中心に寒気の影響により曇りの日が多かった。

なお、月の中旬からは、低気圧の通過後に一時的な冬型の気圧配置となり、北・東日本では降雪となった日があった。旭川と網走（共に北海道）では18日に初雪を観測したが、11月に入っても暖かい日が続いた影響で、旭川と網走の初雪は統計開始（それぞれ1889年、1890年）以降最も遅い記録を更新した。また、26日から27日にかけては低気圧が北・東日本で発達し、北海道で暴風の被害があった。

気温は、北日本では、月の前半は暖かい空気に覆われたため平年を上回ったが、月の後半は平年を下回った。東日本以西では、概ね月を通じて気温は平年を下回った。

## 12月 北日本から西日本にかけて低温となり、北日本及び西日本で月間降水量がかなり多く、北日本日本海側及び西日本で日照時間がかなり少なかった。

日本付近は数日の周期で低気圧が通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置が強まる時期があった。このため、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、特に9日～12日頃と24日～26日頃は北からの強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本にかけての日本海側を中心に広い範囲で大雪となった。北日本から西日本にかけての太平洋側の天気は数日の周期で変わった。沖縄・奄美では、月の中旬に高気圧に覆われて晴れの日が続いたほかは、北からの寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。月平均気温は沖縄・奄美で平年並だったほかは寒気が流れ込んだ影響で全国的に低く、東日本ではかなり低かった。また、北日本から西日本にかけての日本海側の降雪量は多く、北海道では低気圧の影響もあって北海道全域でかなり多かった。日本付近を通過した低気圧と冬型の気圧配置の影響で全国的に降水量が多く、北日本と西日本ではかなり多かった。また、月間日照時間は、東日本太平洋側を除いて全国的に少なく、北日本日本海側と西日本ではかなり少なかった。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成24年）

梅雨入り

地域	本年	平年	前年
沖縄	5月13日頃	5月9日頃	4月30日頃
奄美	5月13日頃	5月11日頃	4月30日頃
九州南部	5月30日頃	5月31日頃	5月23日頃
九州北部	5月30日頃	6月5日頃	5月21日頃
四国	6月2日頃	6月5日頃	5月21日頃
中国	6月8日頃	6月7日頃	5月21日頃
近畿	6月8日頃	6月7日頃	5月22日頃
東海	6月8日頃	6月8日頃	5月22日頃
関東甲信	6月9日頃	6月8日頃	5月27日頃
北陸	6月9日頃	6月12日頃	6月18日頃
東北南部	6月9日頃	6月12日頃	6月21日頃
東北北部	6月9日頃	6月14日頃	6月21日頃

注：気象庁資料による（以下の表において同じ。）。

梅雨明け

地域	本年	平年	前年
沖縄	6月23日頃	6月23日頃	6月9日頃
奄美	6月29日頃	6月29日頃	6月22日頃
九州南部	7月23日頃	7月14日頃	7月8日頃
九州北部	7月23日頃	7月19日頃	7月8日頃
四国	7月17日頃	7月18日頃	7月8日頃
中国	7月17日頃	7月21日頃	7月8日頃
近畿	7月16日頃	7月21日頃	7月8日頃
東海	7月23日頃	7月21日頃	7月8日頃
関東甲信	7月25日頃	7月21日頃	7月9日頃
北陸	7月26日頃	7月24日頃	7月9日頃
東北南部	7月26日頃	7月25日頃	7月9日頃
東北北部	7月26日頃	7月28日頃	7月9日頃

## (2) 被害概況

平成24年は、日本への台風の接近数が17個（平年値11.4個）と平年より多かった。また、梅雨前線に向かって非常に湿った空気が流れ込み九州北部地方の所々で記録的な大雨となったことにより、農作物に被害が発生した。

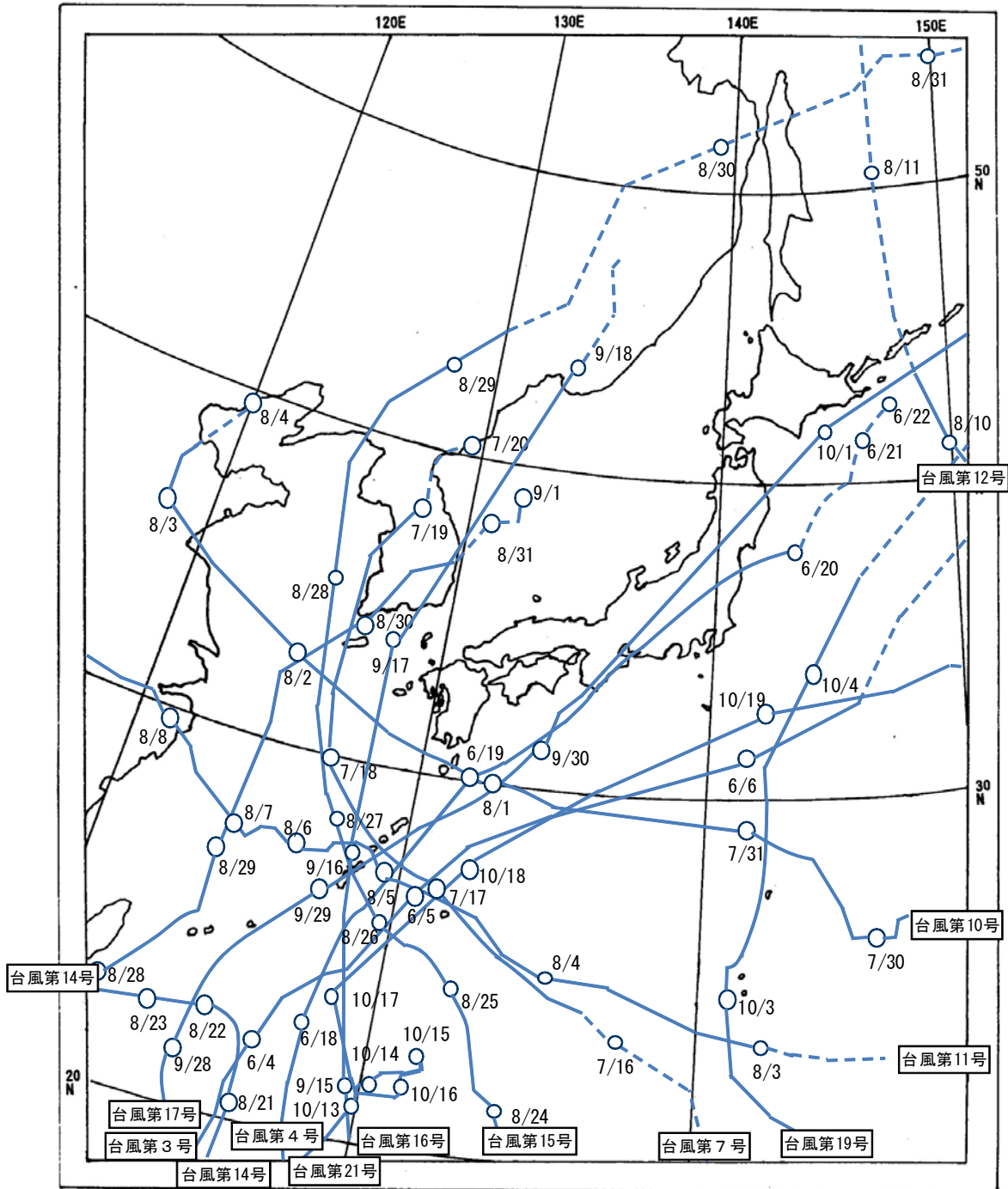
このうち台風第4号及び平成24年梅雨前線豪雨等による災害は、激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（昭和37年法律第150号）（以下「激甚災害法」という。）に基づき、「激甚災害」（全国を対象とする本激）に指定された。

なお、発生した主な被害は表2のとおりである。

表2 平成24年に発生した主要災害種類別被害概況（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積	被害見込金額	主な被害農作物	主な被害地域
平成23年12月以降の降雪、低温等	平成23年 12月以降	39,000 ha	57 億円	果樹、麦類、野菜	北海道、青森県、長崎県 等
台風第4号	平成24年 6月18日～20日	12,700	14	野菜、果樹、 工芸農作物	静岡県、愛知県、山梨県 等
平成24年梅雨前線豪雨等	6月21日 ～7月24日	11,500	33	野菜、水陸稲、果樹	福岡県、熊本県、大分県 等
台風第15号	8月26日～28日	31,000	13	工芸農作物、野菜、 水陸稲	鹿児島県、沖縄県、長崎県 等
台風第16号	9月15日～17日	38,900	18	工芸農作物、水陸稲、 野菜	鹿児島県、沖縄県、長崎県 等
台風第17号 (第19号を含む。)	9月28日 ～10月4日	34,100	30	工芸農作物、果樹、 その他農作物	沖縄県、鹿児島県、和歌山県 等

(3) 平成24年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注： 1 経路上の○印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。  
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。  
 3 気象庁資料から作成した。